

令和4年度 外部評価委員会 概要

1 令和4年度の開催状況

- (1) 日時 令和4年12月6日(火) 13時30分から15時30分
- (2) 場所 長野県林業総合センター大研修室
- (3) 出席委員(敬称略)

委員長	岡野哲郎(信州大学農学部教授(造林学))
委員	未定拓時(信州大学農学部教授(木材利用学))
委員	谷澤恭子(中部森林管理局技術普及課長)
委員	大屋 誠(木曾山林協会長(上松町長))
委員	高田幸生(長野県森林組合連合会代表理事専務)
委員	宮崎正毅(長野県木材協同組合連合会長)
委員	田中 忠(長野県林業研究グループ連絡協会会長)
委員	横関 透((一社)長野県農村工業研究所きのご開発研究部長)
委員	丸山弘子(長野県建築士会安曇野支部)
委員	福田 久(元長野県農業改良普及協会常務理事兼事務局長)

以上、10名全員出席

2 委員長選任

試験研究等に係る外部評価委員会設置運営要領第3の規定に基づき委員互選により岡野先生が委員長として選任された。

3 協議内容

- ・各部の取り組み状況の概要及び課題事例について
- ・総括

(1) 各部の取り組み状況の概要及び課題事例について

指導部 報告内容 林業士の活動について

質疑1 林業士のフォローアップはどのように行っているのか。

回答1 林業士会、地域支部、普及協会などで支援をしているところ。

質疑2 林業士入門講座が地域で活躍する人材を輩出しようとしていることは理解したが、基礎的な林業の知見が不足している感もある。測量などの基礎的な素養を着実に身に着けるような点も配慮してほしい。

回答2 事業体に雇用され現場の実務を担うFWなどを育成する緑の雇用制度とのすみわけも意識。基本的な知見の習得不足については別途検討。

育林部 初期保育に期待できる苗木の条件について

質疑 1 内容は非常に明快であるが、実用化のめどはどうか。

回答 1 結果の提示は喫緊に実施するが、苗木生産者への指導に若干の時間を要する。2～3年以内には生産体制を含めて確立させていきたい。

質疑 2 形状比の重要性を改めて再認識。再造林の後押しをきちんと支援してほしい。

回答 2 積極的に推進する。

特産部 シイタケ蒸し込み技術の実用化

質疑 1 蒸し込み技術は非常に興味深い。温度は調整したのか。

回答 1 温度調整はしていない。

質疑 2 発表課題とは異なるが、来年度からの実施課題にある耕作放棄地対策はどこまで真剣に行おうと考えているのか。

こうした課題は、農地法の問題など他部局との政策議論も必要になるのではないか。

回答 2 市町村とも連携して課題の推進にあたっており、ご意見をいただいた点は十分に考慮している。

木材部 熱処理木材

質疑 1 大径材は天然乾燥、長尺で売るようなことも考えてほしい。環境に配慮した乾燥技術に期待する。

回答 1 事業者の実態や要望に応じて、人工乾燥とビニールハウス乾燥を含めた天然乾燥を組み合わせた乾燥方法を模索していく。

(2) 総括

各委員からの意見

- ・例年感じることだが、いいことをやっているが表に出ていない。成果をもっとオープンにして、企業などと一緒に歩んでもらえる雰囲気を出してほしい。
- ・取り組みが幅広すぎる点もあるので、絞って深く取り組むことがあってもよい。
- ・林業士が地域で知られていないので、新たな定義をつくるなど明確化をしたほうがよい。
- ・タワーヤーダが特別教育になった中で、技術者養成講座の架線課程の必要性をもう少し吟味してほしい。架線作業主任者の資格は、2年の実務経験を必要とするが、実務を経験できる事業体が限られてしまうため対策を考えてほしい。
- ・内容は非常に興味深いですが、速く成果が上がるようにしてほしい。
- ・木材利用の点で多くの課題をこなす中で、今回の委員会では何を評価してほしいと考えたのかその意図が不明確だった。再考を望む。例えば、業務報告の P114、P116 の取り組みも聞きたかった。

- ・基本計画の5-1の①で10年後に「県内林家収入の増加を支援」とあるが、産業直結である以上、収入増支援はもっと前面に押し出すべき。
- ・育林では経費のダウンが示されたが、具体的な金額で示してほしい。特産は、精油のような新たなビジネスの産業化に、木材は、ワイン樽の小規模ワイナリーとの連携、売り込みなど高付加価値化に期待。
- ・業務に役立つ内容が多い。実務者へのフィードバックを早め、事業化してもらいたい。
- ・林業士の資格取得が処遇改善につながってほしい。
- ・木材を調達する際に、地元の広葉樹が名古屋に出て、それを買ってきたり、外材を買ってきたりしていた。地元の広葉樹を地元の木工家が加工、使われるようなシステムが大事。
- ・日本の森林を再評価する人材育成に尽力してほしい。
- ・SDGsへの取り組みをもっとわかりやすく。
- ・林業経営者として、育林部の発表は明確な基準が示され感謝。苗木の品質向上も積極的に進めてほしい。
- ・さらに、未利用材の有効活用策についても期待している。
- ・研究成果や技術指導のレベルの高さを知った。成果を専門誌へ投稿するなどの取り組みをもっと進めてほしい。

委員長まとめ

- ・研究内容が多岐にわたって広すぎる上にレベルも高い。ただし、誰のためにどのようなレベルの研究をしているのかを改めて意識してほしい。県の研究機関なので、誰のためなのかは一定の理解があるが、これが基礎的な視点なのか、実用化に向けた取組なのかをステークホルダーにしっかり示していくことが肝心。
- ・県民が理解できる見せ方も工夫してほしい